

科目名	コンピュータシステム I A						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者			
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	情報活用試験(J検)の出題範囲に準拠し、情報化に主体的に対応するための基礎的な知識、また情報処理における表現方法と処理手順、ハードウェアおよびソフトウェアの基礎知識、インターネットの基礎知識や仕組み、インターネットやメールの利用などに関わる基礎知識を学ぶ。基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					情報技術に関する基礎的な専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				情報機器について、性能、特性や機能を理解し、適切に活用できるようにする。	
		○				情報社会における様々なシステムについて学び、適切に説明できるようにする。	
		○				OS、ソフトウェアについて学び、その仕組みと活用法について説明できる。	
		○				マルチメディア、データベースについて理解し、説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	留学生のためのITリテラシー(インフォテック・サーブ)、情報活用試験3級過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	情報とデータ、情報の表現形式					
	3-4	数値データと論理データ、問題解決の方法					
	5-6	小テスト、問題演習				これまでの範囲を復習しておくこと	
	7-8	コンピュータの種類と歴史、基本構成					
	9-10	コンピュータの五大装置					
	11-12	小テスト、問題演習				これまでの範囲を復習しておくこと	
	13-14	ネットワークの基礎知識					
	15-16	インターネットの仕組み					
	17-18	小テスト、問題演習				これまでの範囲を復習しておくこと	
	19-20	インターネットサービス、メール					
	21-22	WWWの利用					
	23-24	小テスト、問題演習				これまでの範囲を復習しておくこと	
	25-26	過去問題集演習・解説				これまでの範囲を復習しておくこと	
	27-28	過去問題集演習・解説				これまでの範囲を復習しておくこと	
	29-30	過去問題集演習・解説				これまでの範囲を復習しておくこと	
評価方法	(1)授業内評価テスト(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)授業の中で課題を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	課題・レポート	○	○		○		20%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。授業計画は状況により変更になることがある。再試験は実施しない。						

科目名	組込みソフトウェア開発演習						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	浜地 啓		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	組込みシステムの構築において必須となるC言語。まずは文法の理解と主な関数の使用方法を学習する。また、C言語検定3級の問題解答やプログラミング作成演習を通して、C言語の基礎知識の定着を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				変数宣言、条件分岐、繰り返しを使ったプログラムを作成できる	
	○	○				C言語のデータ型と演算子の種類を説明できる	
		○		○		C言語プログラミング検定3級を合格できる	
テキスト・教材 参考図書	初級C言語ーやさしいC(2010/実教出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-4	概要 Cの歴史と特徴、基本的なプログラム					
	5-8	変数、型、printf()					
	9-12	演算子 計算					
	13-16	制御文 if、switch 演算子 比較、論理					
	17-20	制御文 for、while					
	21-24	配列 文字列、多次元配列					
	25-28	関数 定義、呼び出し					
	29-32	関数 変数のスコープ、引数の受け渡し、再帰					
	33-36	プログラムの構成 ヘッダファイル、マクロ					
	36-40	文字操作関数 <ctype.h>					
	41-44	これまでのまとめ				これまで学習した内容を見直しておくこと	
	45-48	C言語プログラミング検定3級問題(1)					
	49-52	C言語プログラミング検定3級問題(2)					
	53-56	C言語プログラミング検定3級問題(3)					
57-60	C言語プログラミング検定3級問題(4)						
評価方法	(1)課題として C言語プログラミング検定3級を受験する。(2)授業中に課題を指示する。(3)授業内評価テストを実施する。(4)受講状況を評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(80%以上で合格)・A(70%以上で合格)・B(60%以上で合格)・C(50%以上)・D(50%未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		50%
	授業内評価テスト	○	◎				40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。授業計画は状況により変更になることがある。再試験は実施しない。						

科目名	IT応用 I A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	世界中多くの企業で使用されるOffice製品。この授業では、卒業後の日本での就労を想定して、日本版のOfficeを使用し、1年次に身につけたスキルをさらにブラッシュアップする為、日本情報処理検定協会 情報処理技能検定試験 表計算3級合格を目指し、必要なスキルを習得する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			ローマ字入力を用いて複雑なタイピング操作ができる。	
		○				Excelの表作成機能を用いて体裁よく表作成ができる。	
		○				Excelの関数機能を用いて効率的な計算ができる。	
テキスト・教材 参考図書	P検タイピング練習 インターネット版(ソーシャル投稿非対応 学校内利用推奨) https://www.pken.com/tool/typing.html						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	タイピング復習・毎日パソコンコンクール演習					
	2	毎日パソコンコンクール演習・Excel基礎復習				Excelの基本操作を復習しておくこと。	
	3	四則演算・セル参照				四則演算の復習をしておくこと。	
	4	絶対参照と構成比率の計算				セル参照の復習をしておくこと。	
	5	罫線処理と表示形式					
	6	オートSUM・合計・平均・最大値・最小値					
	7	並べ替えと順位				関数の使い方の復習をしておくこと。	
	8	端数の処理					
	9	条件分岐					
	10	複雑な条件分岐				条件分岐の復習をしておくこと。	
	11	検定対策①					
	12	検定対策②					
	13	検定演習					
	14	実務的な関数					
15	総合演習						
評価方法	(1)授業の中で課題を作成する。(2)出席回数を評価する。(3)授業内評価テストを実施する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○	◎				60%
	授業内評価テスト	○	◎		○		20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	課題は毎回忘れずに提出すること。2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。授業計画は状況により変更になることがある。再試験は実施しない。						

科目名	言語ⅡA						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者			
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	N1レベルの文法項目を学び、日常的な場面に加えてより幅広い場面で使われる日本語が理解し、運用できるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					日常のより幅広い場面で必要なN1レベルの文型を理解し、自分の言葉で説明できる	
	○					フォーマルな場面と日常的な場面での日本語の差異を理解し、適切な文法の使い分けができる	
		○				学習した文型を使って相手や状況にふさわしい文を作ることができる	
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1・2	授業概要説明 問題紹介 / 第1部1課時間関係			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
	3・4	第1部2課範囲の始まり・限度 /3課限定・非限定・付加			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
	5・6	第1部4課例示 / 問題(1課～4課)			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
	7・8	第1部5課関係・無関係 /6課様子			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
	9・10	第1部7課付随行動 /8課逆説			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
	11・12	問題(1課～8課) / 9課条件			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
	13・14	第1部10課逆説条件 /11課目的・手段			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
	15・16	第1部12原因・理由 / 問題(1課～12課)			授業内評価テスト準備		
	17・18	授業内評価テスト① / 13課可能・不可能・禁止			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
	19・20	第1部14課話題・評価の基準 /15課比較対照			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
	21・22	第1部16課結末・最終の状態 / 問題(1課～16課)			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
	23・24	第1部17課強調 /18課主張・断定			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
	25・26	第1部19課評価・感想 /20課心情・強制的思い			新出語彙等は必ず家で復習をすること		
27・28	問題(1課～20課) / 文法形式の整理A動詞の意味に着目1			授業内評価テスト準備			
29・30	授業内評価テスト② / 文法形式の整理A動詞の意味に着目2			新出語彙等は必ず家で復習をすること			
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語基礎ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	日本語能力試験N1レベルの語彙をマスターするために、専門のテキストに沿って学習し、知識を積み上げていく。また、学んだ語彙を使用した発話練習も行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					日本語能力試験N1レベルの語彙を習得する	
	○					習得した語彙を適切な場面で運用できるようになる	
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター語彙 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業概要説明、第1部1章1課「性格・人柄」・2課「人間関係・付き合い」			次回の予習・小テストの準備		
	2	第1部2章1課「日常生活」			次回の予習・小テストの準備		
	3	第1部2章2課「医療・健康」			次回の予習・小テストの準備		
	4	第1部3章「芸術・スポーツ」・4章「教育」			次回の予習・小テストの準備		
	5	第1部5章「仕事」			次回の予習・小テストの準備		
	6	第1部6章「メディア」			次回の予習・小テストの準備		
	7	第1部7章1課「経済・産業」・復習			次回の予習・授業内評価テストの準備		
	8	第1部7章2課「政治・法律・歴史」・授業内評価テスト①			次回の予習・小テストの準備		
	9	第1部7章3課「社会問題」			次回の予習・小テストの準備		
	10	第1部8章1課「自然・地形」・2課「技術」			次回の予習・小テストの準備		
	11	第1部9章1課「時間・空間」			次回の予習・小テストの準備		
	12	第1部9章2課「関係・変化」			次回の予習・小テストの準備		
	13	第2部1章1課「名詞」			次回の予習・小テストの準備		
	14	第2部1章2課「動詞」			次回の予習・授業内評価テストの準備		
15	復習・授業内評価テスト②						
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
受講状況				◎		20%	
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	言語応用ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	N1レベルの聴読解問題に取り組み、実生活の幅広い場面で必要な読み聴きの力を習得することを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					N1レベルの語彙や表現を習得し、使用言語域を拡大することができる。	
		○				耳からの情報だけで話の要点を掴み、内容を理解し適当な応答をすることができる。	
			○			文章を正しく読み取り、文脈や話の意図が理解できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	『ドリル&ドリル日本語能力試験N1聴解・読解』(ユニコム)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業概要説明、読解:内容理解(短文)第1回			授業の復習および次回への予習		
	2	聴解:課題理解第1回、読解:内容理解(中文)第1回			授業の復習および次回への予習		
	3	聴解:ポイント理解第1回、読解:内容理解(長文)第1回、第2回			授業の復習および次回への予習		
	4	聴解:概要理解第1回、読解:統合理解第1回、第2回			授業の復習および次回への予習		
	5	聴解:即時応答第1回、読解:主張理解第1回、第2回			授業の復習および次回への予習		
	6	聴解:統合理解第1回①、読解:情報検索第1回、第2回			授業の復習および次回への予習		
	7	聴解:統合理解第1回②、読解:前期前半まとめ			授業内評価テスト準備		
	8	授業内評価テスト①			授業の復習および次回への予習		
	9	聴解:課題理解第2回、読解:内容理解(短文)第2回			授業の復習および次回への予習		
	10	聴解:ポイント理解第2回、読解:内容理解(中文)第2回			授業の復習および次回への予習		
	11	聴解:概要理解第2回、読解:内容理解(長文)第3回、第4回			授業の復習および次回への予習		
	12	聴解:即時応答第2回、読解:統合理解3回、情報検索第3回			授業の復習および次回への予習		
	13	聴解:統合理解第2回①、読解:主張理解第3回、第4回			授業の復習および次回への予習		
	14	聴解:統合理解第2回②、読解:前期後半まとめ			授業内評価テスト準備		
15	授業内評価テスト②						
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
受講状況				◎		20%	
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	一般教養 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	言語と非言語の文章題を解く事により、社会人として必要となる基礎知識を身につけることを目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					日本で生活をする上で最低限必要となる漢字の問題を解くことができる。	
		○				数的な問題の基本を理解し、自分の力で問題を解くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、就職適性検査の説明、漢字					
	2	SPI対策(仕事算)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	3	SPI対策(仕事算)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	4	SPI対策(鶴亀算)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	5	SPI対策(鶴亀算)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	6	SPI対策(損益算)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	7	SPI対策(損益算)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	8	SPI対策(速さ・時間・距離)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	9	SPI対策(速さ・時間・距離)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	10	SPI対策(場合の数)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	11	SPI対策(場合の数)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	12	SPI対策(確率)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	13	SPI対策(確率)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
	14	SPI対策(割引・割合)、漢字			漢字の確認テストの準備をしていく		
15	SPI対策(割引・割合)、漢字			正試験に向けての準備をしておくこと			
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)小テストを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	小テスト	○					20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	寺崎 葉子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	企業内、ビジネス場面で想定される会話が理解でき、日本独自のコミュニケーション技法やマナーも踏まえて発話、応答できるようにするための語彙、文法を学び、会話練習を通し実践力を養う。授業はテキストに沿って行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					日本企業で働くにあたって必要な語彙の習得	
		○				相手から発せられた会話が理解でき、適切な応答ができる	
		○				適切な語彙、マナーや日本の習慣、慣習も踏まえた発話ができる	
テキスト・教材 参考図書	『人を動かす!実戦ビジネス日本語会話【中級1】』(スリーエーネットワーク 2016年)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業概要説明、第1課「新人を歓迎する」					
	2	第1課「新人を歓迎する」					
	3	第1課「新人を歓迎する」					
	4	第1課「新人を歓迎する」				第2課の会話確認	
	5	第2課「仕事の引き継ぎをする」					
	6	第2課「仕事の引き継ぎをする」					
	7	第2課「仕事の引き継ぎをする」					
	8	第2課「仕事の引き継ぎをする」・授業内評価テスト				第3課の会話確認	
	9	第3課「取引先を訪問する」					
	10	第3課「取引先を訪問する」					
	11	第3課「取引先を訪問する」					
	12	第3課「取引先を訪問する」				第4課の会話確認	
	13	第4課「営業報告会に出る」					
	14	第4課「営業報告会に出る」					
15	第4課「営業報告会に出る」・まとめ				定期試験のための復習		
評価方法	(1)随時小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実施する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	授業内評価テスト	◎	◎				20%
	小テスト				◎		20%
受講状況	◎	○		○		20%	
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位未取得となる。 授業計画は状況により変更になることがある。						

科目名	接遇演習A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	姫嶋 幸子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	1) 日本でのビジネス場面で、必要なマナーについて知識を得る 2) 1)を踏まえて電話を受ける・名刺交換ができるようになる iCDタスクコード						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			第一印象を大切にされた挨拶を常にすることができる	
	○	○				正しい敬語で受け答えができ、相手に良い印象を与えるポイントを説明できる	
	○					日本独特のしきたりを理解し、正しいマナーを日本語で説明できる	
	○		○			愛想のよい電話の受け方ができる	
	○					あらゆるサービスの場面で適切な対応の仕方を選択肢から選ぶことができる	
テキスト・教材 参考図書	教員作成プリント 参考図書: ビジスマナー基本実習(教師用指導書)(早稲田教育出版)・サービス接遇検定3級実問題集(早稲田教育出版)・電話検定受験ガイド(早稲田教育出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第一印象・感じのいい自己紹介					
	2	第一印象・入退室				ロールプレイングのための課題をすること	
	3	敬語・書類の渡し方				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	4	指し示し方・物の拾い方、渡し方					
	5	日本における感じのいいビジネスパーソンの髪型、服装					
	6	日本における冠婚葬祭時のしきたりとマナー				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	7	電話練習①基本的な言葉の練習				ロールプレイングのための課題をすること	
	8	電話練習②メモをとりながら、電話を受ける				ロールプレイングのための課題をすること	
	9	電話練習③クレームをうける				ロールプレイングのための課題をすること	
	10	電話練習④企業訪問依頼の電話/受験の際にも遅刻しそうになったら/会社の場所がわからなかったら					
	11						
	12	文書練習①送付書を書いてみる				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	13	文書練習②案内状を書いてみる				次週、確認テストを行うので、指定の範囲を復習すること	
	14	サービス接遇検定3級にチャレンジ					
15	振り返り・まとめ						
評価方法	(1) 正試験期間中に定期試験を実施する。(2) 全コマの2/3以上出席し意欲的に取り組む (2) 学習したことをロールプレイングで表現する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	受講状況				○		20%
	ロールプレイング		○	○	◎		20%
履修上の注意	授業で学んだことは、アルバイトなど、日常生活の中で実践すること 各テストで60点以上得点できるよう、必ず授業の復習を行うこと。						

科目名	ビジネス英語Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	田中 雅彦		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	国際ITエンジニア科2年						
授業概要	国際化が進む日本において、訪日外国人への対応はますます重要になっている。広く使用されている英語の運用能力を高めるために、英語の語彙や文法表現を復習し、TOEICの聴解問題も利用して、英語力を高めしていく。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				日常からビジネスシーンで使える語彙を増やし、正しい使い方が選択できるようになる	
	○	○				TOEICの問題を解くことで、それぞれのシーンで使用される表現を選択できるようになる	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自己紹介・授業の説明・リスニング問題で実力を測る			新出語彙の復習をしてくる		
	2	筆記問題で実力を測る			新出語彙の復習をしてくる		
	3	写真や図について英語で説明する			新出語彙の復習をしてくる、授業の復習をしてくる		
	4	英語の基本的な応答を学ぶ			新出語彙の復習をしてくる、授業の復習をしてくる		
	5	英語のさまざまな応答を学ぶ			新出語彙の復習をしてくる、授業の復習をしてくる		
	6	会話を内容を理解する			新出語彙の復習をしてくる、授業の復習をしてくる		
	7	説明文の内容を理解する			新出語彙の復習をしてくる、授業の復習をしてくる		
	8	正しい語彙の選択をする			新出語彙の復習をしてくる、授業の復習をしてくる		
	9	短い文章を読み解く			新出語彙の復習をしてくる、授業の復習をしてくる		
	10	チラシや告知などの内容を読み解く			新出語彙の復習をしてくる、授業の復習をしてくる		
	11	比較的長い文章を読み解く			新出語彙の復習をしてくる、授業の復習をしてくる		
	12	リスニング問題で実力を測る			新出語彙の復習をしてくる、授業の復習をしてくる		
	13	筆記問題で実力を測る			新出語彙の復習をしてくる、授業の復習をしてくる		
	14	筆記問題で実力を測る			授業内評価テストの準備		
15	授業内評価テスト、まとめ						
評価方法	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト・課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
受講状況				◎		20%	
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位なしとする。授業計画は状況により変更になることがある。再試験は実施しない。						